
名探偵コナン × だぁ!だぁ!だぁ! ～演劇大会～

千龍風爽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

名探偵コナン×だぁ！だぁ！だぁ！ ～演劇大会～

【Nコード】

N0958S

【作者名】

千龍風爽

【あらすじ】

名探偵コナンとだぁ！だぁ！だぁ！のクロスオーバー作品です。

Episode:00 (前書き)

♪登場人物♪

♪だあ！だあ！だあ！♪

光月未夢^{こうつきみゆ}…だあ！だあ！だあ！の主人公。中学2年生、両親の仕事の関係で今は西遠寺彷徨の家に居候中

西遠寺彷徨^{さいおんじかなた}…もう1人の主人公。両親の仕事の関係で未夢とワンニヤールウを除けば1人暮らし

ルウ…オット星という地球から120億光年離れた星から時空のひずみに飲み込まれてやってきた、男の子

ワンニヤー…ルウのベビーシッターペット

天地ななみ^{てんち}…未夢のクラスメート。スポーツ万能

小西綾^{こにしあや}…未夢のクラスメート、演劇のことになると人が変わる

花小町クリスティヌ^{はなこまち}…未夢のクラスメート。表と裏の顔を持っている。彷徨が好きで彷徨のことになると裏の性格が出る

♪名探偵コナン♪

工藤新一^{くどうしんいち}…中学生探偵

宮野志保^{みやのしほ}…新一の同級生であり幼馴染、クール。

毛利蘭^{もつりらん}…新一のクラスメートであり幼馴染、明るく可愛い正しい正確だが空手がものすごく強い

コナンキャラの設定が多少違います、ご了承ください。

Episode:00

平尾町の中学校 } 1 - 1 {

「はい、皆さん！！席について！！」

担任の水野が声をかける
皆、一斉に席に着いた

「今日の1時間目は道德です。」

水野がいうと生徒のうちの1人、小西綾が勢いよく立ち上がった
そして自信満々なような顔で教壇に立つ

「さあ、皆さん！！今年も演劇大会の季節がやってきました！！」

と綾

工藤新一と毛利蘭、そして宮野志保は平尾町の中学校に転校したばかりだから良く分からない

「ねえ、天地さん、演劇大会って何？」

「おい、彷徨、演劇大会って何だ？」

「ねえ、クリスちゃん、演劇大会って何？」

志保は隣の席の 天地ななみ に、そして新一は後ろの席の 西遠
寺彷徨 に、そして蘭は前の席の 花小町クリスティーヌ に聞いた

「毎年1回か2回行われる演劇の大会。」

と彷徨

「そうそう。でも気をつけたほうがいいよ、この頃の綾には…。」

とななみ

「綾ちゃんは、縁が演劇部副部長でして、演劇のことになると人が
変わるんですわ。」

ほぼ似た答え

新一と志保と蘭は目を点にした

なぜならいつも明るい綾が演劇のコトになると人が変わるとい
うことだ

「で、今回の作品は神話をテーマにしましたっ！名づけて…

『ストーリー
空の上の物語』

です！！今から台本配ります。」

綾はせつせと台本を1人1つずつ配っていく
未夢と彷徨は台本を見て絶句した

「ってなわけで今日の放課後から稽古始めるから、お願いしま」

「「意義あり！！」」

綾がしゃべっていると未夢と彷徨が椅子から立ち上がった

「え??」

目を少し点にする綾

「主役がまあ、工藤君と蘭ちゃんっていうのは分かるんだけど、サブ主役の志保ちゃんはおいという... ルウ君 って...」
と未夢

「度が高すぎる、赤ん坊なしで出来ないのか？」

と彷徨

綾は全キャスト・スタッフが載っているページを開く

しかし綾は何も気にしてない
別に前にもやったことがある...ということ自信満々なんだろう

「無理無理！！だってポイントが上がらないもん。てなわけで西遠寺君と未夢ちゃん放課後、ルウ君を連れてきてね！先生には私から許可を貰っておくから！！」

グッドラックの指でウィンクする綾

2人は大きな溜め息をつく

新一と志保は怪しいと思いながら見ていた

休み時間

「彷徨、どうする？前もルーナ姫でルウ君は出てたけど、それは私たちがフォローするから良かったけど今回は、工藤君と蘭ちゃんだよ、私たちは絶対、裏の作業の人になっちゃうよね。」

浮いたり超能力使ったりしないよね？」

と未夢

彷徨は少し考えた

「ワンニャーがいるんじゃないか？」

…ずっこける未夢

考えが簡単すぎるから

「…あのね、ワンニャーがルウ君のコトを見てるとしても前のルーナ姫みたくトランポリンの係だったら無茶な動きは出来ないよ…。」

と段々心配になっていく未夢
彷徨は黙って未夢を見ていた

「…話すか？工藤たちに。」

静かに言う彷徨

未夢は少し目を丸くしたがまた俯いてしまった

「でもママにルウ君とワンニャーが宇宙人だってコトがばれたら…、解剖されちゃうよ、ルウ君もワンニャーも…。」

それに私たちだけの秘密だったのに…、話すと何か寂しくなるよ。
それに彷徨、前言ってたでしょ？ 分かり合えるのも友達だけど
分らないのも友達…って…。

そしてもしも私たちが工藤君たちに話したら今度は工藤君が今の私たちみたいに嘘をつく羽目になるって。他の人に迷惑かけることは出来ないよ。」

と未夢

彷徨は手を頭の上に組んで「そーだよな。」と呟く

「まあ、今日の練習を見てから決めようぜ、そのほうが話は早くて済むだろ。」

彷徨は未夢の肩を軽く叩き教室へと入っていった
未夢は窓から見える西遠寺を見つめていた

放課後

「はい、練習、始めます！！工藤君、蘭ちゃん、スタンバイして！！あとルウ君もね！！」

大道具と裏方の人はそれぞれ、自分の仕事場についてください！！
！！

綾が元気に言うと「おおーっ」という歓声が教室中に響き渡った

未夢は照明、彷徨は大道具、ルウの傍にはついてやれなかった

未夢は彷徨と若いお兄さんに変身したワンニヤーをつれて廊下へと
出た

♪廊下♪

「いい、ワンニヤー、ルウ君、頼んだわよ。」

と未夢

ワンニヤーは胸をどーんと叩き

「この有能なシッターペット、ワンニヤーにお任せくださいー!!」

と堂々。

「大丈夫だと思っけどな、ルウも超能力とか空を浮いたりしちゃ、
駄目だぞ。」

彷徨はルウの頭を撫でた
ルウは可愛く頷く

2人はその場から各仕事場へ分かれた
ワンニャーは道具に変身

ルウは今、蘭に抱かれている

「ルウ君。」

蘭は笑顔でルウの名を呼ぶ
ルウは笑顔で返す

そのとき

~~~~~♪

曲が流れた  
ルウは喜び始めた

それは黒須三太が用意している 鳥のレコード

志保と新一そして蘭は目を点にしている  
クリスマスはクスクス笑っている

「はい、稽古に入りまーす！工藤君、蘭ちゃん、志保ちゃんお願いね！！ルウ君も頑張ろうね！！」

綾はガッツポーズ

苦笑する3人

稽古中

【見て、私の子、こんなに綺麗な瞳をしているわ。】

蘭が演じるのは女神

新一はその夫

蘭の手の中には眠ったルウがいた

新一と蘭の息子役だろう

志保は語り部

【これは今から何億年前の話。ある女神と神の間に1人の可愛い男の子が生まれた】

【マンマ、パパー！】

笑顔で言うルウ

皆は感心している

なぜならこんなに幼い子が空気を呼んで演技をしているから  
しかしルウは退屈で退屈でしうがなかった

しかし偶然、近くにルウのすきそうなものがあつた

ルウはそれで遊びたくなりぐずり始め、蘭のうでの中から出ようとする

しかし蘭は気付かないためずっとルウを抱いたまま

ワンニャーも慌て始めた  
そしてついに…

「  
だ  
あ  
ー  
っ  
!!  
」

「ルルルルウちゃまつ!」

ルウは浮いてしまった…

**E p i s o d e : 0 0 ( 後 書 き )**

何かありましたらお願いいたします。

b y 美樹 優羽

## Episode:01

「ルウ君!？」

蘭は目を丸くして驚いていた、もう言葉が出ない  
ワンニャーはもう周りの人のコトは気にしないで

「ワンニャーっっ!!」

と小道具から若いお兄さんに変身。ルウを捕まえる  
そのとき

「ルウっ!」

彷徨が入ってきた  
そしてワンニャーの元へ

ルウは不機嫌な顔をしている  
だって自分押したいことをする前にワンニャーに捕まってしまった  
から

「ワンニャー、まさか、皆のいる前でルウを取り押さえたのか!？」

彷徨がワンニャーの耳元で聞くとワンニャーは硬直した  
ルウは再びワンニャーの腕の中から脱出し、浮こうとした

そのとき未夢が入ってきた

浮いているルウを取り押さえる  
再び愚図るルウ

「彷徨、ルウ君のコト、ばれちゃったの？」

未夢が彷徨の元で小声で聞いた  
彷徨は小さく頷いた

未夢は焦る

「くつつついてる、彷徨君と未夢ちゃんが…やっぱり2人、将来は  
結婚…、そそそそんなの…いやあああああーっ!!」

未夢と彷徨の後ろから怖いオーラが出ている  
後ろを向くとクリスが教室内を荒らしている

冷や汗をたらす2人

「クリスちゃん、くつついてないよーっ！ほらほら。」

慌てて未夢は彷徨から離れた  
クリスは「あらっ、失礼、私ったら…。」と笑顔でいい、教室内の  
もので目茶苦茶にしたものを大工道具を出して直した

新一らは苦笑していた

「ねえ、未夢、これ、どういうことなの？」

ななみが聞く

その声とともに後ろから「そうだ、説明して！」という言葉等が出  
始めてきた

未夢と彷徨は戸惑う

「皆、静かに！この元探偵水野をなめないでちょうだい！西遠寺君、  
光月さん、隠しても無駄よ！  
私には全部分かっているの。」

未夢と彷徨の担任、水野が出てきた  
クラス中から喚声があがる

更に冷や汗をたらす2人

新一は推理するようなポーズ  
志保も少し考えている様子

「「！」」

新一と志保は分かったらしい

「水野先生、僕も分かりました。」

「私もです。」

新一と志保がいうと更に喚声があがる  
未夢と彷徨、そしてワニニャーはその場から逃げたい気分だった

**E p i s o d e : 0 1 (後書き)**

何かありましたら宜しくお願いいたします。

b y 美樹 優羽

## Episode:02(前書き)

ここで だぁ!だぁ!だぁ! に出てくるキャラクターが大勢登場  
いたします。

## Episode:02

「…彷徨、どーしよー、もしもルウ君とワンニャーが宇宙人ってばれちゃったら…、間違いなくママに解剖されちゃうよー…。」

冷や汗をたらす未夢、彷徨も冷静を保っているがやはり焦りが少し見られる

不適に探偵っぽく笑う水野

「…フッフ、さあ、推理ショーの始まりよ!!」

西遠寺君、光月さん、ルウ君とワンニャーという物体は…。

NASAで開発した赤ちゃんロボットと変身できてしゃべられるロボットね!!!!」

…皆、目を点にする

未夢と彷徨は目を見合わせる  
新一と志保は肩を落とした

「…あら、違うの？」

と水野

未夢と彷徨は気を取り直し

「そうなんですよールウ君とワンニヤーはロボットなんです！…ただだから空も自由自在に飛べたり超能力を使えたりするんですよ！  
！ハハハ…っ！！」

身振り手振りですうですといわんばかりの態度をとる2人  
ルウは何も分かってないためかキヤハハと笑っていた  
ワンニヤーも一息ついていた

しかし…

「水野先生、その推理は間違っていると思います。」

新一が冷静にいうとまた未夢と彷徨は新一のほうを向いた  
志保も新一の後ろに来た

「ええ、この赤ちゃんと変な物体はロボットなんかじゃないわ。」

「ししし志保ちゃん、何言ってくれちゃってるの！？ルウ君とワ  
ンニヤーは確かにNASAで開発されたロボットだよ！！ママが実  
験って言って私に送ってくれたんだよ！！」

絶対に水野の推理があつてると強調する未夢

「そうだ、工藤、何言ってるんだ、今の水野先生の推理は完璧だっ  
た。ルウとワンニヤーは確かに…」

彷徨も新一の推理を聞こうとしない  
そのとき…

「こんにちは」

とくるくる回りながら部屋に誰か入ってきた  
その人物は彷徨と直撃

彷徨は床に倒れてしまった

「…ってーな、ったく…。…みかんさん！！！」

部屋に入ってきたのは人気少女漫画家の山村みかん  
いつもネタを探し回っていて、よく彷徨達に迷惑をかける人物の1人

「…今の話、続き聞かせて聞かせてーっ、胸がドキドキするの！！  
何かいい話のネタにもなりそうだから、ほらほら、その美青年、  
さっさと話を進めんか！この頭の上に乗っかっているみかんがまだ  
かまだかともう破裂しそなくなるの大きい大きさにまで達しているのだ  
ぞー！！」

メモ帳とペンを取り出してネタをメモする体制のみかん

新一はみかんの頭の上に載っているみかんに苦笑  
志保も同じく呆れている

「ネタにはならないから帰ってください！！ほらほら、もう少しで  
×切が迫ってるんでしよう！！」

早くしないと担当編集者のマリ山に怒られちゃいますよ！！ほら  
いつものように」

「「みかん先生、こんなところで何やってるんですか、駄目でしょ  
う、原稿書き上げてから遊びに行ってください！！」」

未夢と誰かの声がハモる

みかんは冷や汗をたらした

未夢は後ろを向いた

「…マリ山さん！！」

山村みかんの担当編集者、マリ山が怒った顔をしてたっていた

みかんはそうつとマリ山のほうを見たと思ったら素早く逃げた  
しかし…

「逃がしませんよ！！…捕まえた！！みかん先生、さっさと原稿書  
き上げちゃってくださいよ！！」

あっさりとマリ山に捕まってしまった

みかんは泣きながら助けを求めるが皆無視。みかんはあっさりとマリ山に連れて行かれてしまった

一瞬で嵐が去った…

「で、気を取り直して、いいわ、工藤君、宮野さんあなた方の推理を聞かせて頂戴。」

水野が少し真面目な顔で言うとなーと志保は頷いた  
未夢と彷徨とワンニャーは息を呑んだ

「…僕の推理が正しければその生物とルウ君という赤ん坊は…宇宙人です。」

ー宇宙人です。 -

皆、顎が外れているかのように口が大きく開いていた  
未夢と彷徨は唇をかんだ

ワンニャーも顎が外れている

「宇宙人ってどういうことなのーっ!!」

クリスはパニックになりその場に気絶。  
皆、息を吞んで真相を話してくれるのを待っている

未夢と彷徨は教室の出入り口から逃げたいが、蘭がたっているため  
出られない

おそらくみかんが出て行ったときに新一か志保に指示されたのだろう  
そのときだ…

「おばたん！！彷徨お兄たん、大丈夫？」

と元気な女の子の声が聞こえた  
蘭がたち防いでいた扉が開き、蘭の股を潜り抜けて女の子がルウの  
下へ来た

「…ももかちゃん。」

彼女は花小町ももか、花小町クリスティーヌの従姉妹で桃の木幼稚園  
園のももぐみ3番。因みに3歳のスーパードキドキ幼稚園児。ルウとワンニ  
ヤーの正体を知っている数少ない存在のうちの1人  
毎日のようにルウと一緒に遊んでいる

「もーもー！！」

ルウは笑顔になり、浮いてももかの傍に行こうとするが

「ルウ、だめよ！お空を飛んでは！」

というもかの合図ジェスチャーに気付かされ、未夢の腕の中でじっとしていた

「…推理をしようとしているお兄たん、ルウとワンニャーは宇宙人  
なんかじゃないわよ。」

ちゃんとチヨウコってモンがあるのよ！」

チツチと舌を鳴らしながらお嬢様気取りで言うももか  
ももかがピーーと口笛を鳴らすと…

「はーいっ！」

と窓から誰かが入ってきた

「夜星！！」

「星夜君！！」

彼はシャラク星という地球とは別の銀河系にある星から地球に観光  
旅行にやってきたルウとワンニャー同様宇宙人の夜星星夜。

過去にシャラク星のテレビ番組ビックリワイドショーというものにルウとワンニヤーを出せば大稼ぎできるといいルウとワンニヤーを強制でシャラク星に連れて行こうとしたことがあるが今ではルウとワンニヤーを理解してくれているよき協力者。

実は星夜の住んでいるシャラク星は人間ではない形をしているため星夜の本当の姿は謎である

「いやあー、ももかちゃんに呼ばれて飛んできました、貧乏宇宙人の夜星星夜です！」

…あ、ここで自己紹介はまずかったかな…、ハハ…。」

自己紹介した後で苦笑する星夜  
三太は星夜に興味を示したのか

「俺、黒須三太！！友達になってくれ！！」

と手を握り返す始末  
星夜は苦笑

「はいはい、アンタはむこうで1人で騒いでな！」

とななみに投げ飛ばされた

未夢と彷徨は少し話をして、お互いを見て頷いた  
ワンニャーも頷いた

「いいよ、有難う、星夜君、ももかちゃん、本当のことを話すよ。」

未夢は静かに笑顔で2人に礼を言った

「ルウ、ももかちゃんのトコに行つていいぞ。ももかちゃん、ルウを宜しくな。」

彷徨はルウに言うところルウは未夢の手から抜け出してももかの元へ飛んでいった

ルウを抱きしめるももか

「…工藤君と志保ちゃんの言うとおり、ルウ君とワンニャーは宇宙人だよ。」

ある日、UFOに乗って西遠寺にやってきたの。

あとはワンニャーに説明してもらうね。ルウ君のコトも。」

未夢は寂しい顔をして言うとワンニャーは頷いた

「私はルウちゃまのシッターペットのワンニャーと申します。ココからは未夢さんに代わって私がご説明いたしましょう。」

私とルウちゃまはこの地球からはるか遠い120億光年離れたオット星という星から時空のひずみというものに飛ばされて西遠寺にやってきたんです。

何とか怪我はなかったものの私達が乗っているUFOが壊れてしまい、救助船が来るまでこの西遠寺さんにお世話になることになったのです、設定上ではルウちゃまは未夢さんの弟。私はNASAの開発したロボット型のペットということでした。ここにいるももかさんや星夜さんにはたくさんお世話になったんです。

もう感謝では表せないくらいに……、ううー。」

話しながら泣いてしまったワンニャー

ももかはワンニャーのほうをむいた、ももかはルウを離し、ルウはワンニャーの元へと飛んでいった

「ンニャ？ワンニャ？」

ルウはワンニャーの頭を軽くぽんぽんと叩く  
ワンニャーは涙を拭い、ルウを抱きしめた  
一気に周りの空気が静まり返った

「そこで皆にお願いがあるんだ。」

彷徨が口を開いた

「何？」

と水野

「ルウとワンニヤーのコトが未夢の母さんにばれたらルウとワンニヤーが解剖されちまうかも知れないんだ。だから…このコトは黙っておいてくれないか？」

頼む！」

頭を下げる彷徨

皆は顔を見合わせた

未夢もワンニヤーも頭を下げた

「んなの彷徨に協力するに決まってるじゃんか！」

最初に発したのは三太だった  
顔を上げる3人

「うん、だって今まで一緒に活動してきた仲間だもん！私達にも協力させて、未夢ちゃん♪」

と綾

ななみも頷いた

「…まあ、いいんじゃない、面白そうだし。」

呟く志保

「おい…。」

新一は静かに志保に突っ込んだ  
蘭もやってきた

「私達も精一杯協力するよ!!」

未夢の手を握っている蘭

星夜ともかは目を見合わせて笑った

「未夢っちっ、僕に何か出来ることがあればいつでもいつてくれ  
よっ！」

光ヶ丘望が現れた

彼は彷徨にライバル意識を抱いているが本人は全く自覚していない  
いつも オカメちゃん というオカメインコを肩に乗せて歩いてい  
る、ナルシストで綺麗な女性を見かければいつも手に持っている赤  
い薔薇をプレゼントしている

未夢は望の発言に苦笑しながらもお礼を言っていた

「よーしっ、じゃあ、もう1回お芝居の続き練習するわよっ!!」

綾が台本を握り締め、大きな声で言うのと2 - 1のクラスメイト全員、

… 気絶したクリスティーヌを除いて皆、大きな声で「オオーっ！」  
と手を上げた

## Episode:02(後書き)

何かありましたら宜しくお願いいたします。感想等もお待ちしております。

by 美樹 優羽

## Episode:03 (前書き)

ここでもだぁ！だぁ！だぁ！のキャラクターが登場いたします

## Episode:03

「蘭ちゃん、工藤君、それ違う!!」ココはもうちょっと気持ちを込めてえーっ!!」

体育館で綾の声が響き渡る

今は稽古中。綾は台本を握り締めながら、こうしてほしいと体で表現!!アピールしている

蘭は苦笑しながら謝り、新一は「へーへー」と頭をかきながら返事。

その様子を志保は舞台の下手側で見ながら笑っていた

志保の腕の中にはルウがいる

「ンニヤー!!」

ルウはワンニヤーを呼んだ

ワンニヤーはすぐにルウの元へ来た

「はいはい、ルウちゃん、ミルクの時間ですね、すぐにご用意いたしましょう!!」志保さん、ありがとうございます!!」

ワンニヤーはお礼をいい、志保からルウを抱き上げる

「あ、ワンニヤー、昨日、少しオット星の救助隊がこの付近にいないか調べてみたわ。

まだこの銀河系には到達してないみたい。120億光年も離れるからかも知れないけど…。

また何日かしたら調べてみるけど過度な期待はしないで頂戴。」

志保はワンニヤーに耳打ちした

ワンニヤーは笑顔でお礼を言った

「有難うございます、志保さん、逆に迷惑かけてしまってるような気がします…。」

苦笑しながら言うワンニヤー

「別に大丈夫よ、何とかなるんじゃないかしら？」

志保は小さく笑み言った

ワンニヤーは再度お礼をいい、ルウを連れていった

「アンタたち、準備はいい？ 今度こそやっちゃおうよ！！」

あるUFO的な乗り物の中で1人の女性、ドリアンの声が響き渡った  
「でもドリアン姉ちゃん、また失敗したらどうするのさ。」

もう1人の女性、キウイ。

「そうだよ、止めようよ！！」

と3人目の女性、グアバ。  
この3人はシャラク星で、大借金をした泥棒3人姉妹。

オット星の赤ちゃん「ルウが珍しくて手に入れようとし、有名なテレビ番組に出して大儲けをしようとしている。

「えーいつ、うるさいね、あんた達はあつ、でもこれで成功したら大儲けだよ!!」

さあ、ちゃっちゃんと準備してきなさあーい!!」

「は・はあーいつ」

グアバとキウイは外へ出て行った  
そして機械を作って未夢と彷徨の中学校へと向かった

「はい、これから20分休憩!!」

綾の声が体育館に響く  
休憩タイム。たちまちルウの周りには大群の女子。

そのなかには蘭の姿もあった

そしてワンニャーの肉球が可愛いだのとワンニャーの元にも大群の女子。

少しして女子らは少し減り、蘭と未夢、彷徨、新一、ななみ、綾、クリスティヌ、そして志保だけが残っていた  
そのとき

「たのもーじゃないかつ!!」

体育館の扉が勢いよく開いた

未夢たちは振り向いた

「貴方達は！！」

「ルウに何の用だよ！！今すぐ帰れ！！ルウは絶対に渡さない！！」

「以前、私をあつためた…。」

いたのはドリアン率いる泥棒運団3姉妹  
未夢と彷徨はルウを守るために必死

新一らはワケが分からない

「どうしたの？」

と蘭

「ルウ君を狙ってる泥棒さんですわ！！」

とクリスティーヌ

「何人聞きの悪いことを言ってくれちゃってるんだい？」

私達にはそのオット星のルウ君が必要なんだよ。君がいるだけで  
私達は大儲けできるのさっ」

さあ、早くルウ君をコッチに渡しな！！」

ドリアンは遂には未夢の前に来た  
そこでクリスティーヌの怒りが爆発。

彷徨との距離が近いからだ

「よくもよくも私の彷徨君に近づきましたわねー、彷徨君と仲良し  
になっていいのは私だけですわぁーっ!!」

クリスティーヌは人格が変わってしまった。ドリアンを軽々と持ち  
上げ、吹っ飛ばしてしまった

ドリアンは体育館の入り口側に投げ飛ばされた

起き上がるドリアン

「あら、やだ、私ったら…。」

クリスティーヌは我に返ったらしい

「あーあ、もう怒っちゃったもんね、こっとなったら意地でもルウ君  
を奪っちゃうよー!」

ドリアンはルウを指差していった

新一も彷徨と一緒にルウを守っている  
蘭も未夢を抱きしめ、ルウをとられない様にしている

志保はワニニャーに知らせに言った

ドリアンは

「さあ、グアバ、キウイ、見せてやるんだよ！！私達の本当の力を  
！！」

と声を張り上げた

## Episode:03 (後書き)

お久しぶりです。何かありましたらお願いいたします。

by 千龍風爽

## Episode:04

「グアバ、キウイ、やっておしまい!!」

ドリアンの少し調子に乗った声、そして怒りの声が響いた  
未夢はルウを強く抱いた

ルウは「ママ?」と未夢の様子を伺う

「せーの…」

「「こちよこちよ作戦!!」」

後ろからグアバとキウイが回り込む。  
未夢を撥る。

「ひよひよひよ、ってなにすんのよ!!びっくりするぞ」

「今だぁーっっ!!」

ドリアンの指示でグアバとキウイはルウをキャッチ  
そそくさとドリアンの元へとルウを連れて行く

「ああーっ！！しまったあーっっ！！」

未夢は叫んだ

ドリアンはニヤリと未夢らを見て笑っている

「ルウ君は頂いたよー。さあ、ルウ君、私達と一緒に大儲けちまち  
ようねえ…。」

ドリアンはルウの顔に自分の頬を擦り付ける

「ルウ君を返さない！！」

蘭はドリアンに向かって言うがドリアンは「奪い返せるものならや  
ってみなー」と素っ気無い態度をとっている

「ちょっと、オバたん！！あたちのルウに何ちゅんのよ！！」

ももかが体育館に入ってきた

「…ももかちゃん、何をしてるんですの？」

クリスティーヌが聞く

「だって彷徨お兄さんの家に行ってもだーれもないんでちゅもの。もうルウとあちよんでもいいでしょ？」

ちよつとオバたん、あたり、これからルウと2人きりでデートをちゅる時間なの！！

分かったらルウを離ちて！！」

ももかはドリアンを指差して起こった

「うるさいねえ、ルウ君は私達と一緒にオット星に行くのさ！さあ、ルウ君、行きまちょうねえ。」

あ、因みにまだ私は20代前半さ！言葉の使い方には充分気をつけな！」

とドリアン

「ルウ、今よ！！」

ももかがいうとルウはドリアンの腕からするりと抜け出して、ももかの腕の中に飛び込んだ

「もーもつ。」

とルウ

ドリアンは跪いて、体育館の床を叩く

「もう少しだったのにいつ…。」

涙ぐむドリアンたち

ももかはそんな3人をほおって、未夢のところへ。

「ももかちゃん、有難う。」

未夢はももかの目線にあわせて礼を言った

ももかは小さく鼻を鳴らし

「あたちとルウの愛を嘗めないでちょうらい！！それよりも、オバたん、あたち、ルウとデートしたいの、ルウを連れて帰ってもいいでしょ？」

ももかが綾にウル目で頼む  
しかし

「これからルウ君の出番だから無理！」

ときっぱり断られた

ももかは綾をじろりと睨む

「でも見学ならいいわよ、ルウ君のマネージャーとしてのね。」

綾はウィンクをしていった

ももかは大きく頷き、あとの稽古をずっと見ていた  
ドリアンたちは、ずっと伸びていた

## Episode : 04 (後書き)

今日は早く更新できました。また、短編が連載になるか分かりませんが、新小説を投稿しようと思っております。

正式なCPは決まっておりますませんが。次回も宜しくお願いいたします。  
では。

by 千龍風爽

## Episode:05

稽古が終わった後。

「ねえ、蘭ちゃんたち、今日、私達の家に来ない？」

未夢が誘い出した

「おい、未夢、正式に言えばお前の家じゃなくて俺の家だからな。」

横で彷徨が欠伸をしながら突っ込む

未夢は苦笑する

するとワンニヤーがルウを抱いて未夢たちの元へ来た

「未夢さん、彷徨さん、今日はお客様が来るのですか!？」

ワンニヤーがドキドキワクワク気味で聞いた

「じゃあ、お言葉に甘えようかなあ。未夢ちゃん、今日、お邪魔するよ。新一と志保さんも一緒に。」

西遠寺君も大丈夫？お邪魔なら帰るけど。」

蘭が聞く

彷徨は小さく頭を書いた後再び大きな欠伸をした

「別にいいんじゃないの。」

素っ気無く言う彷徨

「じゃあ、今日、お邪魔するね！」

蘭が笑顔でいった

ルウは蘭の笑顔を見て蘭を伺っていた

「お邪魔します。」

今は西遠寺。

未夢は蘭たちをたたみの部屋〓客間へと案内する

ルウは少し不機嫌

ワンニヤーは料理を力いっぱい作っている

彷徨は新一と話している、同じく蘭は未夢と話している

志保は西遠寺を見回している

「そういえば西遠寺君のお父さんも住職なんでしょう？今、どこにいるの？」

志保は彷徨に聞いた

普通なら出てくる父親が出てこないからだった

「ああ、家の親父は未夢が来た日に知り合いからインドで修行する許可が出たっていつて勝手にインドに行っちゃった。

だからワンニヤーたちを除けば、俺と未夢の2人暮らしてこと

になるな。」

と彷徨

志保は「ふーん」といい、再び客間を見回していた

ルウは隅っこで1人ぽつんと遊んでいる

「ルウ君、お姉ちゃんの所、おいでよ。」

蘭が呼びかけた

しかしルウはやってこない、逆に言えば蘭を涙目で睨んでいる

「ルウ君、睨んじゃ駄目でしょう!！」

と未夢

蘭は「未夢ちゃん、気にしないでいいよ。」と笑顔で言う

彷徨も一応、未夢ほどではないが優しく注意した  
しかしルウは返事1つしない

未夢は微妙に堪忍袋の緒が切れたのか

「もうそんな態度とるなら、もう私、知らないからね!！」

ととうとう怒ってしまった

ルウはその声に反応したのか未夢の方に振り向いた

蘭は「そこまで言わなくても…」と苦笑している

未夢はルウと逆向きの方をむいてルウと顔をあわせようとはしてい  
なかつた

「……うわああああーっ……。」

ルウは泣き始めた

## Episode:05 (後書き)

中途半端ですが。次回も宜しく願いいたします。  
では。

by 千龍風爽

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0958s/>

---

名探偵コナン×だぁ!だぁ!だぁ! ～演劇大会～

2011年10月7日23時17分発行